

知のかけはし入学試験 過去の出題内容

2023年度

講義内容

多様性の測り方について、数理科学的観点から講義を行った。

いろいろな種類のものがある状況において多様性を測る方法は複数ありうる。講義では、単に種類の個数を数えることにもとづく方法に加えて、他の種類に比べて大きな割合を占める種類があると多様性が低くなるような方法について、数値例を交えながら紹介した。これらの方法を含む様々な多様性の測り方は、測る際に希少な種類をどの程度重視するかという観点から意味づけることができることを議論した。さらに、測り方によっては多様性の大小関係が逆転する場合があることについても説明した。

出題の意図は、多様性という言葉は様々な場面において用いられるが、「多様性が高い・低い」といわれるとき、どのようにして多様性が測られているのかを考え直してもらうことにあった。受講者は、自ら人間社会や自然界における具体的な状況を挙げて、その適切な多様性の測り方について根拠にもとづいて議論することが期待された。

講義の要旨

講義の要点を D_0 と D_∞ の意味に注目しつつ整理し、400 字程度でまとめなさい。

(解答用紙：B4 用紙（横書き）30 行野 1 枚)

小論文テーマ

人間社会や自然界における具体例を挙げながら、「多様性が高い」とはどのような状態か、講義内容を踏まえ 800 字程度であなたの考えを述べなさい。

グループディスカッションテーマ

多様性の適切な測り方について、具体例に即して議論してください。

2022年度

講義内容

土俵の女人禁制をテーマに哲学的、倫理的観点から講義を行った。

現在、大相撲の土俵は女人禁制とされている。講義では土俵の女人禁制の制度の背景を説明し、そのうえで、この制度を批判する論者の言説と支持する論者の言説を紹介、分析した。

出題の意図は、「平等」や「伝統の尊重」といった我々の世界観の根本にかかわる観念を問い直す体験をしてもらうことにあった。安易な小手先の妥協や「問題解決」ではなく、自らの意見を支える理由を徹底的に論じ合うことが期待されていた。

講義の要旨

講義の要点を自分の言葉で整理し、まとめなさい。(解答用紙：B4 用紙（横書き）30 行野 1 枚)

小論文テーマ

講義で扱った土俵の女人禁制に対するあなたの見解について、あなたとは異なる立場に反論を加えながら 800 字程度でまとめなさい。

グループディスカッションテーマ

小論文で書いたあなたの意見を述べたうえで、土俵の女人禁制の是非について議論してください。

なお、グループとしての結論を出す必要はありません。

2021年度

※2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン方式で選考を実施した。

事前課題として講義動画を視聴し、講義ノート（講義の要旨）および小論文の提出を課した。

グループディスカッションは受験生同士で行う形式ではなく、「ディスカッションの要素を含む面接」を実施した。

講義内容

2019年末より新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界的に流行した。本講義では、感染拡大の抑え込みに成功した事例として知られる、台湾における対策を取り上げた。

講義ではまず、台湾では政府が迅速かつ強制的な措置を採ったことを紹介した。その上で、本来は「徹底した防疫」と「人権の保障」の両立は簡単でないことを指摘し、なぜ台湾では人々の権利を厳しく制限する対策が市民から支持されたのか考えるよう、受講者に求めた。その手がかりとして、成功のカギは「政治の緊張感と、政府に対する市民の信頼感」であったとする、毎日新聞台北支局の福岡静哉記者の分析を紹介した。

出題の意図は、感染症という生命にかかわる重大な問題への対策のために、私たちが普段享受できている権利はどこまで制限されてよいのか、その制限は誰がどう決めるのか、という問いと格闘してもらうことにあった。したがって、受講者はディスカッションや小論文に際し、台湾の経験から何を学ぶかという素直な方向性のほか、台湾の対策にも問題はなかったか検討する、という方向で議論を展開することも可能であった。

小論文テーマ

新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴い、日本でも様々な出来事が起こりました。その中であなたが重要だと思う出来事の一つを取り上げ、その概要を説明したうえで、自由に論じなさい。（1,200字以内）

ディスカッションの要素を含む面接 テーマ

「講義動画で指摘された台湾の新型コロナウイルス感染症対策の特徴について、概要を説明したうえで、台湾の事例の参考にすべき点やさらなる課題について、あなたの考えを自由に述べてください。」をテーマとし、面接官とともに議論を行った。

2020年度

講義内容

近年の小・中学校の状況から“不登校”に焦点を当てて講義を行った。

まず、不登校とはなにかということをも文部科学省の定義によりながら、それが時代を経てこれまでどのように捉えられ扱われてきたかについて、変遷過程を説明した。また、最新の統計資料から、不登校児童生徒数の推移、不登校児童生徒の欠席期間別実人数、学年別不登校児童生徒数についておさえ、その要因や対応がどのように検討されてきたかについて確認した。

次に、義務教育とは、教育を受ける権利を保障するものとして憲法に規定され、一人一人の国民の人格形成と、国家・社会の形成者の育成という重要な役割を担うものであるとされていることを説明した。

不登校という事態は、重要な役割を担う義務教育の機会の保障やその水準の確保を損ないかねないことから、これまでは学校復帰が前提とされてきたが、平成28年の新たな法律公布を機に、学校以外での「多様な学びの機会」を拡大する方向へシフトしてきていることについて問題意識を促した。

小論文テーマ

多様な教育における学校制度の役割と限界について、あなた自身の考えを800字以内で述べて下さい。

グループディスカッションテーマ

「不登校をめぐる問題に対して社会はどう向き合うべきか？」について議論し、グループで結論を出しなさい。

2019年度

講義内容

現代の文字ベースのコミュニケーションをテーマにして、特に返信スピードに焦点を当てた。具体的には、手紙、PCで使われる電子メール、携帯電話で使われる電子メール、そして現在の文字ベースのコミュニケーションアプリケーションの4種を取り上げ、返信スピードに着目してそれぞれの特徴を考察した。それによって、送信側が受信側の都合を考慮することなく送信できる（つまり、受信側も自己の都合で送られたメッセージを読み取れる）コミュニケーション（これを「非同期コミュニケーション」という）であった書くメディアが、テクノロジーの発達によって、送信側と受信側とが時差なく同時にコミュニケーションをする同期的使用に変わりつつあることを理解してもらった。

小論文テーマ

テクノロジーの発達が人間社会の豊かさに及ぼす影響について、どのように考えるか述べて下さい。
（解答用紙：B4用紙（横書き）30行罫1枚）

グループディスカッションテーマ

講義で扱われたのは、おもに友人という相手とのやりとりであった。では、やりとりをする相手として、友人以外にどのような対象がありうるか。また、それぞれの対象とやりとりをする際に、どのようなコミュニケーションのツールおよび方法を用いることが適切と考えられるか。グループ内で論じなさい。